

# 平成23年度 肥料農薬委託試験成績

## I. 県農業総合センター委託(水稲・野菜・果樹)

### 1. 水稲

No.	試験課題名	試験実施場所	依頼者	新・継	結果および考察の概要
1	普通作における施肥効率向上技術の確立試験 (乾田直播栽培による肥効調節型肥料を用いた飼料用稲の栽培法の確立)	浜地域研究所	JA全農(全国本部)	継(H22～23)	本県浜通り地方における「ふくひびき」に対する肥効調節型肥料による乾田直播栽培下の飼料用稲の施肥法を検討したところ、収量は(LP40-LPS100(3:2))区、(LP70-LPS100(〃))区、LP70区、(LP40-LPS80(1.4kg)(〃))区では粗玄米重が80kg/a以上となった。
2	水稲・麦栽培におけるP、K減肥基準策定のための連絡試験 (水稲単作におけるP、K減肥基準の策定)	浜地域研究所	JA全農(全国本部)	継(H21～25)	リン酸肥沃土の低いほ場では、3年連続でリン酸施肥量を低減させた場合及びリン酸カリ低減肥料を施用した場合でも収量、品質への影響は明確ではなかった。
3	水稲疎植栽培法の安定化に向けた効率的施肥技術の検討	浜地域研究所	ジェイカムアグリ	新(H23～24)	浜通りにおける水稲特別栽培米基準の疎植栽培法では、通常の栽植密度と同等の収量が得られた。また、疎植の場合、慣行区の収量に比べ、LP区と特裁一発区がやや少ない傾向が見られた。
4	〃	会津地域研究所	ジェイカムアグリ	新(H23～24)	水稲疎植栽培ではGIB(0.2kg/a)-エムコートS80(0.4kg/a)のN成分配合による全量基肥施肥体系で基肥-穂肥施肥体系と同等の収量、品質が確保された。
5	多肥条件における箱処理剤のいもち病効果確認試験	生産環境部	BASF	新(H23)	葉いもちは少発生、穂いもちは極少発生条件下でフィプロニル・オリサストロビン剤は窒素施肥量が多くなると、効果が不安定になる傾向が認められた。

### 2. 野菜

No.	試験課題名	試験希望場所	依頼者	新・継	結果および考察の概要
6	加里追肥による果実肥大促進技術の確立	作物園芸部	JA全農(全国本部)	新(H23～24)	カリを10kg、20kg/10a区を追肥しても収量は対照区と差異が認められなかった。
7	さやいんげんの安定生産技術の確立 ～栽培管理技術による高温期減収抑制の検討～	作物園芸部	JA全農(全国本部)	新(H23～24)	夏秋期のサヤインゲンにおいて、葉面散布剤の効果について検討した。着莢率や花粉稔性への影響は認められず、収量も対照区と同等であり、減収抑制効果は認められなかった。
8	新肥料・資材を用いた栽培技術の確立試験 (5-アミルプリン酸入り液肥を用いた効果確認試験)	作物園芸部	JA全農(県本部)	継(H22～24)	冬春作トマトに対する5-アミルプリン酸(ペンタキープS)の葉面散布によって、育苗期、生育期とも生育、収量、果数、1果重への影響は認められなかった。

### 3. 果樹

No.	試験課題名	試験希望場所	依頼者	新・継	結果および考察の概要
9	ニホンナシ「幸水」の効率的施肥技術確立試験	生産環境部	太平物産(株)	新(H23～25)	果実肥大期までの長期肥効を期待したLPS160加用ナシ有機一発055施用による浸透水中の硝酸態窒素濃度では化学肥料区に比べ低い傾向であった。
10	モモ果実赤点病防除法の確立試験	果樹研究所	JA全農(全国本部)	継(H21～23)	モモ果実赤点病菌にたいし、菌糸生育抑制効果が高い薬剤はジマンダイセン水和剤、チオノックフロアブル、ダコニール1000、パスポート顆粒水和剤ダコレート水和剤と考えられた。
11	リンゴ主幹害虫ヒメボクトウに対する防除効果確認試験	果樹研究所	JA全農(全国本部)	新(H23～24)	羽化前(5月下旬～6月上旬)のスタイナーネマカーボキサエ剤の樹幹注入処理はヒメボクトウ幼虫の密度低下に効果が期待できた。また、畜圧式噴霧器による同剤の樹幹注入処理は注射筒による処理と同等の効果があると考えられた。

## II. 県植物防疫協会委託(果樹)

No.	試験課題名	試験希望場所	依頼者	新・継	結果および考察の概要
12	コンピューザー設置果樹園におけるハダニ類とカブリダニの調査と天敵増加の解析	県植物防疫協会 (防除コンサル(株))	JA全農(県本部)	継(H22～23)	福島市内のナシ園にはミヤコカブリダニやフツウカブリダニが広く分布していることが明らかになった。そしてミヤコカブリダニが下草でのナミハダニの密度を抑制しており、その結果として樹上でナミハダニが発生することが少なくなってきたと考えられた。